

## 稲ワラすき込みで健全な土づくり

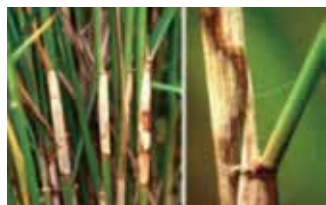
“健全な土づくり”のための稲ワラすき込みは、強いイネ作りの効果や、病虫害や雑草を抑制する効果も期待できます。土中での稲ワラ分解が進むよう、収穫後速やかに行うことが大切です。

### 稲ワラすき込み 病虫害への抑制効果



#### ニカメイガ

一般的に幼虫が稲ワラの中で越冬するため、越冬幼虫を減らすことができます。



#### 紋枯病

紋枯病にかかると茎葉が枯れ上がり、未熟粒の増加や米粒が小さくなり、減収します。今年度に多発生した圃場では、特に注意が必要です。早期に稲ワラを深くすき込むことで、地中深くに菌核を埋没します。



#### 黄萎病

翌年の発生源となります。すき込みは、病原体を持ったイネの再生芽を枯死させ、ツマグロヨコバイの越冬場所を減らします。



#### いもち病菌

菌は、種子や被害ワラで越冬し、翌年の発生源となりますが、腐熟、分解した稲ワラでいもち病菌は越冬できません。

このように稲ワラのすき込みは、本田で越冬する病虫害を全般的に抑制する効果が期待できます。

### 稲ワラすき込み 相乗効果

病虫害抑制効果

雑草抑制効果

腐食促進効果

健全な土づくりの第一歩

## 令和元年 秋の農作業安全月間 実施中

10月31日まで



農業従事者の高齢化、農業機械の大型化などに伴い、農作業が集中する春と秋の農繁期を中心に、毎年多くの農作業事故が発生しています。このため、秋の農繁期を迎えるにあたり、コンバインやトラクタの使用等に伴う基本操作ミスや安全確認不足による農作業事故の発生が多いので、特に気を付けましょう!!

## 麦づくりは排水対策が一番

### 圃場の準備

#### ●弾丸暗渠

○暗渠排水のできているところは、排水管と直交に5m程度の間隔で行いましょう。

○暗渠排水ができていないところは、更に間隔を狭めに行いましょう。

#### ●明渠(排水溝)

○溝の間隔は狭い方が効果があります。特に湿気る圃場は多めに設けてください。

○溝切り後は、溝内の土を取り除き、末端は必ず排水口に繋いでください。

#### ●土づくり

○耕土の酸度調整(PH5.5~6.0)と土づくりとして、土壤改良資材(粒状苦土石灰・粒状ハレー28・苦土重焼燐等)を散布してください。

#### ●種子消毒

○なまぐさ黒穂病、斑葉病などが発病すると生育不良や品質低下や減収を招きます。播種を行う前に、種子消毒を行ってください。